

大崎ひまわり訪問看護ステーション

症例概要 利用者:20代 男性

利用期間:2019年9月～現在も継続中

経過:2016年3月乗用車事故によりA病院へ救急搬送され、左側頭葉脳挫傷、びまん性軸索損傷、気胸、胸椎・骨盤多発骨折、膀胱破裂の診断。膀胱破裂に対し開腹術施行し、その後気管切開する。腎機能悪化みられ透析施行。5月に回復期リハビリテーション病院(B病院)へ転院するも、気胸にてA病院に再入院となる。再びB病院にてリハビリテーションを行っていたものの、意識回復不良にてC病院へ転院。リハビリテーション継続し約3年後の2019年9月に自宅退院となる。

内 容

利用者さんは以前、交通事故により重傷頭部外傷後遺症、気胸、膀胱破裂などで意識不良となりました。その後、一命を取り留め、リハビリを進めながら3年間の入院生活を経て自宅退院となりました。しかし、四肢の関節拘縮や麻痺による筋力低下、運動失調、嚥下障害は強く、ADLはすべて介助を要する状態でした。

「自分で出来ることを増やしたい」。その希望にて、2019年9月PT,OT,STによる週3回のリハビリ、看護師が週1回介入しひまわり全体でサポートすることとなりました。PTでは関節可動域運動や筋力トレーニング、座位保持や立ち上がり練習を行い、OTではADL動作における上肢の関節可動域運動や筋力トレーニング、上衣の着脱練習を行っておりました。STは3食経口摂取が行えるようにトレーニングを続け、顎関節の拘縮による開口障害に関しては歯科医師と連携しながら進めていきました。看護師は胃瘻管理に加えリハビリ内容の一部も行い、チーム一丸となって身体機能の促通を図りました。

リハビリの効果によって立ち上がりの力も少しずつ向上してきた頃、ご本人から「一人でベッドへの乗り移りが出来るようになりたい」との話が聞かれました。全ての介助を担う母親の負担を少しでも減らしたいという思いからです。

移乗動作を獲得するべく、PTとOTの時間でスライディングボードを利用した移乗動作練習を開始。失調が強く転倒のリスクもあるため、安全に行えることを目標に車椅子を変更し、手すりや車椅子の位置や移乗の手順まで細かく確認しながら進めました。

利用者さんは元々バンド活動でギターを弾いており音楽が大好きです。リハビリの時間は出来るだけ楽しんでいただけるよう、大好きな音楽を流しながら行っていました。

現在はリハビリの成果が徐々に見られ、スライディングボードを用いて一人で移乗を行うことが可能となりました。今よりもっと早く出来るようにこれからも練習を続けていきます。

その他、指先の細かな動きを必要とする上衣のファスナー操作が可能となりました。また、現在は胃瘻を使用せず完全に3食経口摂取が可能となりました。

失調で身体が思うように動かない中でも、自分で出来る事を少しずつ増やしていく利用者さん。大好きなテレビゲームも出来るようになりました。これからも利用者さんらしさを叶えていけるようにひまわりは全力でサポートを続けていきます。